

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 101	提案機関名 神奈川県 水源環境保全課
要望問題名	ヒノキの集団的枝枯れ被害の実態解明および被害対策の検討
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】	<p>令和2年度に秦野市菩提地内の森林（水源協定林、土砂流出防備保安林）内において、集団でヒノキが枝枯れする被害が確認された。</p> <p>自然環境保全センターおよび（国研）森林総合研究所の被害調査の結果、この被害は乾燥や強風等の環境要因によって衰弱したヒノキに暗色枝枯病菌等が感染して発生したものと推測されている。</p> <p>近年、夏の高湿・乾燥や台風による暴風が頻発している。このため、上記のような集団的な枝枯れ被害が広範囲で発生することが危惧される。</p> <p>そこで、集団的な枝枯れ被害の実態解明および被害発生林分の施業方法や被害発生リスク評価などの被害対策の検討を要望する。</p>
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) ブナ帯人工林の枯損原因調査		
対応の内容等	<p>ヒノキの集団的な枝枯れ被害は、丹沢や箱根の高標高域に植栽された70～80年生等の比較的高齢な人工林で発生しています。症状としては、樹冠の下部から上部に向けて枯れあがり、症状が進むと樹冠全体に枝枯れが進行して枯死に至ることから、その原因を調査する必要があると考えています。今年度は箱根で新たに被害情報が出てきたことから、森林総合研究所の協力のもとで現地調査を行い、被害木から試料を採取し、病原菌の鑑定を進めているところです。今後、各地の被害の実態や原因について、既往文献とあわせて情報を収集・整理し、被害発生リスク条件下での森林管理の方法について検討してまいります。</p>		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考			